

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、幹線道路の右側車線を走行している時の危険について考えてもらうためのKYTです。

活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2. 「交通場面のイラスト」を見せながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すれば良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト (カラー・A4版)」は下記 SJ ホームページでご覧いただけます。また PDF ファイルもダウンロード (無料) できます。

ホンダ SJ 検索

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業 (株) 安全運転普及本部
TEL: 03(5412) 1736 E-mail: sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業 (株)

あなたは幹線道路の右側車線を走行しています。前方を走っているトラックが左に車線変更しようとウィンカーを出しました。

安全に通過するには、どのようなことを予測する必要がありますか？

Q1

平成 27 年中の車両等の交通法令取締件数 (705 万 5982 件) を違反態様別にみると、携帯電話使用による取締件数は次のうちどれでしょう？

- ① 約 20 万件
- ② 約 50 万件
- ③ 約 100 万件

Q2

携帯電話等使用による交通事故発生場所 (平成 19 ~ 26 年合計) で最も多いのは次のうちどれでしょう？

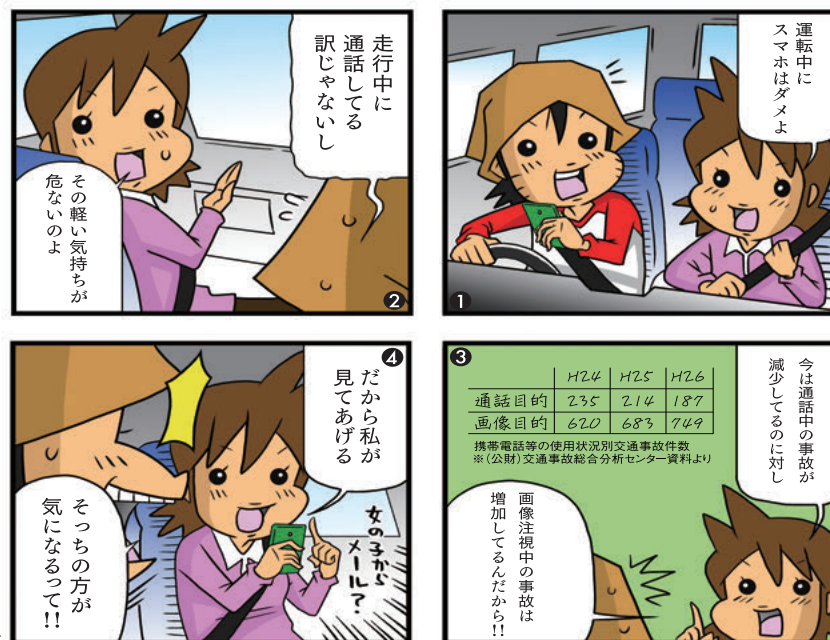
- ① 単路 (直線)
- ② 交差点付近
- ③ 信号交差点

Q3

携帯電話使用等により交通事故を起こした四輪運転者 (平成 19 ~ 26 年合計) を年齢層別にみると、最も多い年齢層は次のうちどれでしょう？

- ① 20 ~ 29 歳
- ② 30 ~ 39 歳
- ③ 40 ~ 49 歳

※「解答」は 8 面下、「解説」は下記 SJ ホームページでご覧いただけます。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>



漫画: 塚本ケースケ

SJ クイズ ?

© 本田技研工業 (株)

指導者ファイル

このコーナーでは、地域で活躍する交通安全教育に携わる指導者の方々を紹介していきます。

34

(一財) 岡山県交通安全協会 児島交通安全協会
シルバーセーフティサポーター
松井和子さん

高齢者が積極的に参加したくなる交通安全教室をめざす

岡山県では各警察署に高齢者専門の交通指導員 (シルバーセーフティサポーター) を配置している。倉敷市の児島警察署管内を担当しているのが、児島交通安全協会の松井和子さんだ。高齢者を対象にした交通安全教室は年間約 90 回実施している。さらに、地域の人々と一緒に松井さんが中心となって、3000 軒を超える高齢者世帯を訪問し、啓発活動も行っている。

「高齢者の皆さんには家に閉じこもらずに、とんとん外に出てきてほしいと考えています。ですから、皆さんが楽しんでもらえる参加型の交通安全教室にするように心がけています」と松井さんは話す。

松井さんは「桃太郎の交通安全教室」として、桃太郎を演じる児島警察署交通企画係長の市場重利さんとの軽妙な掛け合いを通じて、歩行中や自転車乗中の



安全行動を伝えている。その中で、参加者全員で声を出したり、脳トレの教材を使って手を動かしてもらったりしている。例えば「自転車安全利用五則」を覚えやすくするために、松井さんがリズムカルに歌い、それに合わせて参加者に復唱してもらうのである。自分が熱い想いを投げかければ、参加者も熱い想いを投げ返してくれると松井さんはいう。

近年の老人会のイベントでは防犯や防災の話も交えており、限られた時間で交通安全について指導しなければならず、短い時間でも印象に残すための工夫を松井さんは重ねている。

指導者の皆さんの活動を動画で紹介

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/area/movie/>

● 桃太郎の交通安全教室

和装姿の松井さんと人形の桃太郎が交通ルールや交通事故に遭わないためのポイントを高齢者にアドバイスしていく。桃太郎役は交通安全講話を担当している児島警察署交通企画係長の市場重利さん



自転車安全利用五則をリズムカルに歌ったり、参加者にも協力してもらいながら、交通安全教室を進める

1 枚の紙を折りたたんでいくことで、バラバラになっている標識の図柄を完成させるという脳トレ。簡単なようで意外に難しいので、参加者が夢中になるようだ



交通安全教室の会場には反射材の素材を使った衣服や雑貨を展示。暗くした会場内で、参加者がペンライトを当てて、反射材の効果を確かめる